



Title	はじめに
Author(s)	低温科学第74巻編集委員会
Citation	低温科学, 74
Issue Date	2016-03-31
Doc URL	<a href="http://hdl.handle.net/2115/60984">http://hdl.handle.net/2115/60984</a>
Type	bulletin (other)
File Information	A.pdf



[Instructions for use](#)

---

## はじめに

北太平洋の西側には、北からベーリング海、オホーツク海、日本海、東シナ海、南シナ海、インドネシア多島海という、「縁辺海」が連なっています。世界地図を眺めると、大陸と大洋の間に縁辺海という地形が挟まる海は、北太平洋のみであることがわかります。本巻は、そのような縁辺海がもつさまざまな特性や自然環境に対する役割を、「河川を通した陸と海の結合システム」という視点から探ろうとしたものです。

北太平洋の水塊形成や物質循環において、縁辺海の果たす役割は実に大きいものがあります。東アジア大陸や日本列島から河川を通して輸送された淡水や物質の多くは、縁辺海に流れ出ます。縁辺海は半閉鎖的で比較的狭く、また浅い大陸棚が発達しているため、河川から流出した水・物質は北太平洋から入ってくる海水とよく混ざり、その結果、海水は大きく変質して再び北太平洋へと流れ出るようになります。まさに「陸」と「海」が出会い、せめぎ合うのが「縁辺海」なのです。我々環オホーツク観測研究センターが探究してきたアムール-オホーツク-鉄循環システムは、そのような「陸海結合システム」の典型といえるでしょう。

本巻は、低温科学研究所共同研究の萌芽研究「陸域と大洋間における縁辺海の自然科学的な機能と人間活動への役割」（平成25年度～27年度、代表：金沢大・長尾教授）の一環として開催された、シンポジウムやワークショップにおける講演内容を中心に構成しました。「陸海結合システム」のさまざまな最先端の成果を分かりやすく解説していただいたものとなっています。「陸海結合システム」は平成27年度より低温科学研究所の推進プログラムのひとつとして取り上げられており、本巻はそのプログラム推進のための重要な基盤とも位置付けることができます。

最後になりましたが、お忙しい中を縫って原稿を執筆してくださった著者の皆様に厚くお礼を申し上げます。大変ありがとうございました。

「低温科学」第74巻編集委員会

三寺 史夫

西岡 純

白岩 孝行

中村 知裕

的場 澄人

篠原 琴乃

---